同志社女子大学（学芸学部メディア創造学科）との意見交換会

愛称「キララちゃん議会」報告書

日時　令和 2 年 11 月 12 日（木）午後 1 時 15 分

開催場所　京田辺市 議場

はじめに

令和 2 年 11 月 12 日（木）同志社女子大学生（学芸学部メディア創造学科）との意見交換会 愛称「キララちゃん議会」を開催しました。当日は同志社女子大学生 20 名、同大学教授 関口英里さんと本市議会議員 19 名により、本意見交換会を執り行いました。

京田辺観光大使のマスコットキャラクターのキララちゃんが議長を務め、学生の質問に議員が答えるという模擬議会形式で行われ、最後には採決や電子表決も実際に体験してもらうなど、同志社女子大学生に本議会を知る機会を創出しました。

また学生には本市議会の一般質問の形式と同様に、当日までに予め質問通告書を作成していただき、意見交換会にて学生ならではの観点から様々なご意見を頂戴いたしました。

学生の発表の最後には総括質疑として、同大学教授 関口英里さんに「女性の社会参画、特に大学生など若い世代の活躍について」「同志社女子大学との官学連携の推進について」質疑していただき、議会運営委員長の河本隆志が答弁しました。

当日は本議会において初めての試みとして、同志社女子大学学生に YouTube にて中継生放送を行っていただき、約 400 名の方がご視聴されたとのことです。

質疑応答

質問

順位１番　きょうたな娘Ａ　（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　広報活動について

(1)　京田辺市観光パンフレットは、年齢層が絞られている気がする。

(2)　市は SNS をあまり活発に更新しているイメージは無いが、SNS で情報を流した方が若者は見るのでは。

(3)　YouTube がほとんど更新していないが、今後の運用はどのように考えているのか。

順位２番　きょうたな娘Ｂ（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　市の地域活性化への取り組みについて

(1)　京田辺市の農産物を同志社大学や同志社女子大学の学食のメニューとコラボし地産地消を促せばいいのでは。

(2)　京田辺市観光大使であるキララちゃんがもっと市のキャラクターとして活躍してほしいと思うが、市としてはどのようにキララちゃんを活躍させる計画があるのか。（千葉県マスコットキャラクターのチーバくんみたいに全国区に知られるように）

順位３番　きょうたな娘Ｃ（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　公共機関について

(1)　京都府道２２号八幡木津線のマクドナルド山城田辺店付近の道が狭く通学などで通る際危険に感じる。

(2)　同志社大学、同志社女子大学付近に、飲食店やカフェの新設など、発展させる計画はあるのか。

(3)　田辺公園テニスコートのトイレが古いのできれいにしてほしい。

(4)　防賀川テニスコートに更衣室がほしい。

順位４番　京 oshi Ａ（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　ウィズコロナ社会に向けてのオンライン化（高齢者）

(1)　「オンライン化×高齢化」の議題が少ないが、具体的に何か取り組みを行っているのか。

(2)　これからはオンライン化が加速すると思うが、高齢者のデジタルデバイドの対応について（高齢者人口は市の人口の４分の１を占めている）

順位５番　京 oshi B（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）
１　ウィズコロナ社会に向けてのオンライン化（災害時）
(1)　災害時の感染症対策に向けてのオンライン化
　例）非接触の消毒スプレー・避難先へのデジタルマップ化・災害用のアプリ開発など
(2)　災害時の避難先（人数制限アリ）の確保はもちろんだが、そこでの日用品配布の方法
　例）アプリなどで必要なものを個別に依頼など

順位６番　京 oshi C（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）
１　新型コロナと市の税収について
(1)　税徴収の減額が見込まれるとのことだが、ふるさと納税などで増収を見込めないか。（市の特産・技術を使った感染対策商品など）
(2)　クラウドファンディングなどの推進

答弁
総務常任委員会委員長の久保典彦でございます。

同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科の学生の方からいただきました、質問順位１番～６番について限られた時間でもありますので、十分なお答えもできませんが、市議会を代表いたしまして、私の方から答弁させていただきます。

質問の中では、「市の広報について」や「市の地域活性化への取り組みについて」「公共機関について」「ウィズコロナ社会に向けたオンライン化」「新型コロナと市の税収について」など多岐にわたり、ご質問をいただきました。学生の皆さんが京田辺について高い関心を持ってもらっていることを心強く思っています。

そのような中で、ご質問の、広報活動については、多様化する情報発信の手段を研究しながらも広く周知できるようにしていく必要があると認識をしております。地域活性化への取り組みついては、公共交通も含めて様々な視点から取り組んでいくことが重要であると思いますし、学生の皆さんからいただいた貴重な意見等も含めて、我々議員としても研究していきたいと思います。ウィズコロナ社会でのオンライン化についてや、コロナ禍での税収についてのご質問ですが、現在教育の観点では小中学校の全児童へタブレットを導入するなど、ICT を活用した事業についても進めています。

本日、一部の課題のみならず、市を広く捉える視点から若い世代の皆様からいただいた貴重なご意見は、我々議員にとっても、さまざまな課題がある中で、考え、さらに現場の声をす

くい上げ、分析し今後の議員活動に生かしてまいります。そして「大学のある京田辺」を皆さんとともに発展させてまいりたいと思います。
ありがとうございました。

質問

順位７番　京 oshi D（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）
１　公共交通機関の整備について
(1)　京田辺市は交通の要所である。災害時に京田辺市が交通機能を維持しておくことは重要なことだと考える。影響を受けづらい交通機関の整備について
(2)　これからの新しい交通機関について

順位８番　京 oshi E（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）
１　新型コロナと学校給食
　学校給食の共同調理法ではなく、個別に弁当の配布などではダメなのか。（京田辺の弁当屋などの販売店との協力）

順位９番　京 oshi F（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）
１　市の広報活動について
(1)　電子広告化などの検討について（駅前などの掲示板を見る人は少ない）
(2)　特産品の市外への持ち込み（他県の全国版朝市などに出店で PR）
(3)　特産品オンライン販売完備について

順位１０番　GA　A（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）
１　市民の要望反映について
市民の要望は年間で何件実現されているのか、取り組まれているのか。

２　京田辺市 Go To 商店街について
令和 2 年 10 月 19 日以降より政府から Go To 商店街の実施が発表されたが、京田辺市の実施予定はあるのか。

順位１１番　GA　B（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）
１　就学援助制度について
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、高校生及び大学生のアルバイトの収入が激減している。未だ新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見えない中、これからも学生が学び続けることが出来るために、市はどのような対応をとるのか。

答弁
文教福祉常任委員長の田原延行です。

ただ今、順位７番から１１番までの５人の方から
・モビリティーのための公共交通について
・学校給食に関する新たな提案について
・ICT 活用による広報活動について
・市民からの要望について
・コロナ禍での経済対策や学生に対する就学支援について
のご質問をいただきました。

京田辺市にとっては非常に重要な事項を的確にご指摘をいただいております。時間の都合上、一つ一つお答えすることはできませんが、いただいたご指摘等は、今後の市政運営に生かされるよう、議員として取り組んでまいりたいと思っています。

そのような中で、やはり学生の皆様に関心が高いことといえば、新型コロナ集団感染症の影響を受けた就学援助やこれからの学生生活のことだと思います。私自身明確で具体的な答えは持っておりませんが、国や京都府、本市におきましても就学援助制度などを創設しています。それらを十分に活用され少しでも不安を払しょくされますよう願っております。

そして、新型コロナによる集団感染拡大を防止する取り組みが重要となっていますが一方で、市民の個人消費を喚起して経済の立て直しを図ることも重要課題です。本市でもプレミアム商品券の発行など地域経済を支える施策を推進しており、今後も経済動向を注視して必要に応じて、時期を見失うことなく的確な経済対策は重要だと考えております。
こんなときは一人ひとりがよく考えて行動し、そして支えあって生きていくことが重要です。

コロナ危機をチャンスととらえて新たな発想で、新型コロナによる集団感染を防止しつつ、ICT の活用やモビリティー確保、学生支援を含めた経済対策などに取り組むことが行政や議会に（そして皆さんにも）求められていることだと思っております。
以上　ご答弁とさせて頂きます。

質問

順位１２番　GA　C（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　３密対策に係る実証実験について

京田辺市役所 2 階市民ロビーにおいての検証実験が行われているが、実験の有無で変化した点はあるのか。

順位１３番　GA　D（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　市の整備・政策について

子どもが過ごしやすい環境にするために行なっている政策や整備の中で、一番力を入れているものは何か。

２　新型コロナウイルス感染症の対応・対策について

新型コロナウイルスが拡大し始めてから、幼稚園や小学校から市に対して何か要望が出されたことはあったか。また、どのようなものだったか。

順位１４番　GA　E（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　農家の後継者不足の対策

京田辺市産業振興ビジョンの農業分野を拝見したが、京田辺市の課題として後継者不足や京田辺市の農作物をどこに行けば買えるのかわからないといったことがある。

その対策として、京田辺市は親子で農業体験を実施したり、食育に力を入れていることがわかった。しかし、新型コロナウイルスの影響で対面でのイベントが難しくなった。そのため、これからどのようにして農業に関心を持ってもらうような取り組みをしていくのか。

２　学生からの要望

(1)　指定ゴミ袋を作って欲しいという声について

(2)　同志社大学、同志社女子大学付近、また一人暮らしの学生が住むあたりの街灯が少ないことに対して

順位１５番　京 Karute　A（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　市民みらいミーティングについて

市民みらいミーティングを行った後、このミーティングで出たアイデア等を活用して市の取組みが行われているのか。

順位１６番　＃STAY たなべ　A（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　各駅・周辺の整備について

(1)　近鉄興戸駅には、同志社大学・同志社女子大学学生の専用通学路があるが、利用者数

が少ない。警備員が通学時に専用通学路を利用するよう、呼びかけを行っているが効果的ではないと考える。専用通学路を利用するよう対策が必要である。
(2)　近鉄興戸駅の通学路は街灯が少ない。もっと設置すべき。

２　ウィズコロナ社会について
(1)　リモートワークやリモート学習が推奨されているが、市内の各住宅の情報通信環境の現状を問う。
(2)　情報通信環境を平等にするよう、補助金等で環境を整備するべきである。

３　学習について
オンライン授業の推奨によって、個人で授業を受けることが多くなった。周りの環境を伺えないことや、自身の学習スピードに不安がある。就学援助制度があるが、経済的な援助だけではなく、心身的サポートの援助を導入すべき。

答弁
　建設経済常任委員長の岡本 亮一です。

質問がありました質問順位 12 番から 16 番のなかで、建設経済に関係する事項について、質問順位 14 番の「農家の後継者不足の対策」の部分について答弁します。

現在、京田辺市では「産業振興ビジョン」に基づき、農業・商業・工業・観光の 4 つを中心とした産業振興に係る、取り組みを進めている。
なかでも、後継者不足については、農業者が減少するなかで、新規就業者の確保や、育成とともに、人材育成の観点から、既存農業者の資質向上や、高齢農業者に対する支援を進めるなど、京田辺市農業の維持を図っている。
建設経済常任委員会としては、現在、所管事務調査のテーマとして「農業振興」をかかげており、これまで管外行政視察をはじめ、地元・若手農業従事者との意見交換会など行ってきた。
今後も、農業従事者の意見を真摯に受け止めながら、農業に関心をもってもらえるような、取り組みが必要だと考えている。
学生のみなさんが質問して頂いた意見や、要望については、本市の施策を進める上で、参考になるものもあった。また、京田辺市のことをしっかりと、考えてくれている様子も、十分に伝わってきた。
今後は、学生のみなさんが、この経験を大いに生かして、大学や地域で、より一層活躍されることを、心より願っています。

総括

総括質疑

関口　英里　教授（同志社女子大学　学芸学部メディア創造学科）

１　女性の社会参画、特に大学生など若い世代の活躍について

(1)　大学生などより若い世代に重点を置いた施策の方向性について

(2)　京田辺市で学ぶ学生の要望対応や支援策、女子学生ならではの能力を伸長し活用できる仕組みづくりを

２　同志社女子大学との官学連携の推進について

市が行う情報発信において、インターネットや SNS などの新しいメディアで本科学生の持つ技術やプロデュース力を生かした連携や強化の方向性があるのか。

答弁

議会運営委員長の河本 隆志です。

女性の社会進出、特に大学生若い世代へ活躍については、女性の社会進出において京田辺市では、審議会等で女性の方に参加いただいているが、各世代、特に若い女性、学生の方々の参画はまだ不十分なところであることから、議会において本日の意見を推進していけるような体制づくりに努めたいと考えています。

また本日を機に、京田辺市の発展に向けた取り組みを進めていけるよう、各学部（学科）との連携を望んでいます。

官学連携、メディアの活用については、広報と対外への情報発信が今後の主流となる。現在の課題、発展の要素が要と感じている学生の皆様のご知恵をいただき京田辺市議会の SNS、メディア戦略、企画、プロデュースへのお力を貸していただきたいです。

本日いただいたご意見は、議論を重ね、政策の実現に繋がればと思っており、今後もこのような機会を共につくっていただきたく思います。